

平成23年度における気象庁が達成すべき目標に対する実績評価（概要）

【1. 的確な観測・監視及び気象情報の充実等】

平成23年度具体的な目標	平成23年度実績	平成23年度評定
<ul style="list-style-type: none"> ● 台風による被害の軽減を図るため、台風中心位置の72時間先の予報誤差（前5年の平均）を、平成22年の302kmから平成27年までに260kmにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 平成23年の測定値は305km（前5年間の平均）であった。 	<p>目標達成には一層の努力が必要である。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 日本周辺で発生する津波による被害を軽減するため、地震発生後10分以内に津波が来襲することのある沿岸から100km以内で発生する地震に対して、地震発生から地震津波情報発表までに要する時間を平成23年度までに3分以内とする（値は前3年間の平均）。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 平成23年度の測定値は3.4分（前3年間の平均）であった。 	<p>目標達成されておらず一層の努力が必要である。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 内海・内湾における沿岸防災、海運・漁業の安全を図るため、きめ細かい高潮・高波の予測を適用する海域を平成23年度までに7海域以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 平成23年度までの予測海域は7海域となった。 	<p>目標は達成されたものと認められる。</p>

【2. 気象業務に関する技術に関する研究開発の推進】

<ul style="list-style-type: none"> ● より高精度の防災気象情報等を発表するため、地球全体の大気を対象とした数値予報モデルの2日後の予測誤差（数値予報モデルが予測した気圧が500hPaとなる高度の実際との誤差、北半球を対象）を、平成27年末までに平成22年（実績値14.8m）に比べ約20%改善する（目標値12m）。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 平成23年の測定値は14.5mであった。 	<p>目標達成に向け概ね順調に推移している。</p>
--	--	----------------------------